

# 札幌市の予算を家計に例えると…

札幌市の収入と支出②

札幌市の1年間の収入と支出を家計簿に当てはめてみよう！  
平成26年度一般会計予算8,848億円を年収480万円（1か月あたり40万円）の家計に例えてみたよ。



## 収入

	26年度	25年度
給料	18万8千円 (47.0%)	18万円 (46.7%)
うち基本給(市税)	12万7千円	12万2千円
うち諸手当(地方交付税など) <sup>※1</sup>	6万1千円	5万8千円
パート収入(使用料・手数料など)	2万5千円 (6.2%)	2万2千円 (5.8%)
親からの仕送り(国庫支出金など)	10万円 (25.0%)	9万7千円 (25.2%)
貯金の取り崩し(繰入金)	8千円 (2.1%)	3千円 (0.9%)
借金(市債)	4万1千円 (10.3%)	4万3千円 (11.2%)
うち住宅ローン(公共事業のための市債)	1万6千円	1万4千円
うちカードローン(臨時財政対策債) <sup>※2</sup>	2万5千円	2万9千円
その他(中小企業への貸付金にかかる返済金)	3万8千円 (9.5%)	3万9千円 (10.2%)
貯金残高	31万9千円 <sup>※3</sup> (25年度は32万7千円)	
合計	40万円 (100%)	38万5千円 (100%)

※1 地方交付税とは、税収の多い自治体と少ない自治体の間の財源を調整するなどの目的で、いったん国が集めた税を自治体に再配分しているもので、地方固有の財源です。ここでは、本来的に自治体の収入と言えることから、「給料(諸手当)」に区分しています。

※2 本来、国が現金で交付すべき地方交付税の一部について、市が代わりに一時的に借金をしているものです。(詳しくは08ページ)

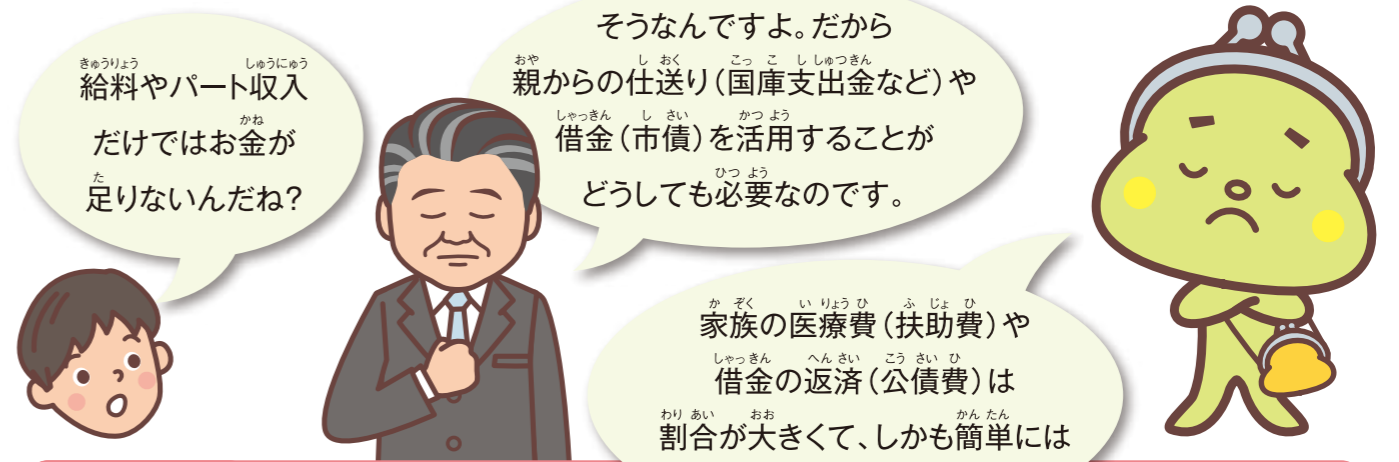
※3 基金の現金分のうち、将来の市債返済のための積立金や一時的な積み立てなどを除いたものです。(平成26年度末残高見込ベース)

## 支出

	26年度	25年度
食費(人件費 職員の給料)	4万4千円 (10.9%)	4万5千円 (11.7%)
家族の医療費(扶助費 <sup>※4</sup> 生活困窮者や障がい者に対する支援など)	12万1千円 (30.2%)	11万9千円 (30.9%)
借金の返済(公債費 市債の返済など)	4万円 (10.0%)	4万1千円 (10.7%)
光熱費などの雑費(物件費・補助金など 公共施設の管理経費など)	6万5千円 (16.3%)	6万4千円 (16.6%)
車や家具の修理代(維持補修費 道路除雪や建物の修理など)	1万2千円 (3.0%)	1万1千円 (2.8%)
子どもたちへの仕送り(他の会計への繰出金)	3万円 (7.5%)	3万円 (7.7%)
家の増改築費(公共事業など 道路や学校の建設など)	4万7千円 (11.9%)	3万4千円 (8.7%)
貯金(積立金など 将来のために残しておくお金など)	3千円 (0.7%)	3千円 (0.8%)
その他(中小企業へ貸すお金など)	3万8千円 (9.5%)	3万9千円 (10.1%)
借金残高	545万7千円 <sup>※5</sup> (25年度は540万2千円)	
合計	40万円 (100%)	38万5千円 (100%)

※4 社会保障制度の一環として、生活困窮者、高齢者、児童、心身に障がいのある方などに対して行っている様々な支援に要する経費。(生活保護費、児童手当など)

※5 一般会計・特別会計・企業会計を合わせた借金の残高は、年収480万円に対し、939万6千円(平成25年度は951万3千円)。(平成26年度末残高見込ベース)



給料やパート収入だけではお金が足りないんだね？

そうなんです。だから親からの仕送り(国庫支出金など)や借金(市債)を活用することがどうしても必要なのです。

家族の医療費(扶助費)や借金の返済(公債費)は割合が大きくて、しかも簡単には減らせないものだね。

